

第1章 子どもの読書活動推進計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

今日、子どもを取り巻く生活環境は、テレビ、パソコン、多機能携帯電話等の情報メディアの発達と普及によって、めまぐるしく変化してきています。これらの変化や趣味、習い事などの増加による読書時間の減少が懸念されています。

子どもの読書量は毎年5月の1か月間を対象とした学校読書調査（全国学校図書館協議会・毎日新聞社共同）によると、2011年の平均読書冊数は小学生9.9冊、中学生3.7冊、高校生1.8冊で、10年前と比較して、小学生約1.6倍、中学生約1.8倍、高校生約1.6倍とそれぞれに伸びを示す結果となっています。

また、不読者の割合は小学生6.2%と10年前に比べ減少しており、中学生では過去のピーク時に比べ3分の1の16.2%に激減しています。高校生においても、過去のピーク時より減少しているものの、不読者は50.8%と依然高い割合を示していることは憂慮されます。

このことから子どもの読書離れが起きているとはいえない状況ですが、成長とともに時間的な制約等から読書離れが進む傾向が見られることは、今後対策を講じていかなければならない重要な課題であるといえます。

この読書調査に示されるここ数年の読書量の増加は、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布、施行され、これを受け各自治体が子どもの読書活動推進計画を策定し、計画に基づいた取り組みを積極的に展開してきたことの表れです。

子どもの読書活動は、単に読む力をつけ、知識を得るだけでなく、創造力、表現力、感受性を養い、人生をより豊かに生きるための力を身につけていく上で極めて重要であるといえます。

そこで、本市においても国・県の指針に沿って取り組むべき方向性を明確にし、家庭・地域・学校等が一体となり、積極的に子どもの読書活動の推進を図っていくため、ここに「山口市子どもの読書活動推進計画」を策定するものです。

2 計画策定の基本方針

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできない大切なものです。

すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的かつ効果的に読書ができるよう、積極的にそのための環境を整え、読書活動を推進していかなければなりません。

そこで、「子どもの読書活動の推進に関する法律」の基本理念を踏まえ、山口市の子どもの読書活動推進の基本方針を次のように決めました。

(1) 子どもが読書に親しむ機会づくり

乳幼児期から読書に親しみ、発育・発達に応じ自主的に読書習慣を身につけていくことができる機会づくりに取り組みます。

(2) 家庭・地域・学校等の連携による読書活動の推進

家庭・地域・学校等がそれぞれ担うべき役割を果たしながら、連携・協力して子どもが日常的に読書に親しむ環境を整え、子どもの読書活動を推進します。

(3) 子どもの読書の意義と重要性の啓発

子どもの読書活動の意義及び重要性について、大人に理解と関心を持ってもらうための啓発を行い、市全体で子どもの読書活動を推進します。

3 計画の期間

計画期間は、平成25年度から平成29年度までとします。

第2章 子どもの読書活動推進のための方策

1 家庭における子どもの読書活動の推進

(1) 家庭において

■現状と課題

読み聞かせは、子どもの想像力や豊かな感性を育むうえで大切なことといわれています。特に家庭における乳幼児期からの読み聞かせは親子のコミュニケーションを促すとともに愛情を深め、子どもの本を読む力に結びついていきます。

山県市社会福祉協議会では、生後6か月までの新生児を持つ保護者を対象に、申請に基づき絵本を1冊プレゼントする事業を行っていますが、今後は本の素晴らしさを伝え手渡すブックスタート事業への転換が望まれます。

また、図書館では絵本等児童書の貸し出しは多く、保育園や児童館でも積極的に絵本等の貸し出しを行っており、多くの家庭で読み聞かせが行われるなど成果を上げています。しかし、小学校高学年、中学校、高等学校と年齢が上がるにつれて読書離れが進む傾向にあることから、保護者や子どもが読書の必要性を認識し、各家庭において子どもが読書にかかわりを持てる環境づくりに取り組む姿勢が一層求められています。

●施策と具体的な取り組み

◇乳幼児期からの読書活動の推進

- ・全新生児を対象としたブックスタートを実施します。
- ・乳幼児健診等の機会を活用し、読み聞かせを実施します。
- ・保護者を対象とした読み聞かせ講座を実施します。
- ・各家庭における読み聞かせを推進します。
- ・図書館等のおすすめ本の紹介や読み聞かせ会などへの参加を促進します。

◇小学生・中学生・高校生の家庭での読書活動の推進

- ・家族ぐるみの読書活動を推進します。
- ・子どもの発達に合わせた本の選書による読み聞かせ等読書活動を推進します。
- ・家族が共有できる書架の設置を推進します。

(2) 保育園、小・中学校家庭教育学級（PTA活動）において

■現状と課題

現在、各家庭教育学級は、小・中学校担当者と家庭教育学級長を中心とした役員により運営されています。参加者を増やすため、リース作りなどカルチャータ的なものになりがちですが、それぞれ工夫を凝らして活動しています。

このような家庭教育学級の子育て講座の中で、読書にかかわる話はあるものの、直接、読み聞かせや読書の重要性について、啓発を図るような内容の講座は少ない状況となっています。今後は、学習会や講座等を開催し、積極的に取り入れていく必要があります。

●施策と具体的な取り組み

◇家庭教育の一環としての読書活動の推進

- ・子どもの発達に応じた読書活動の意義や重要性についての学習会を開催します。
- ・子どもの本の選び方、読み聞かせの仕方など、家庭内で子どもの読書習慣に結びつく学習会を実施します。
- ・保護者自身が本に対して、興味・関心をもつような講座を実施します。

(3) 子ども会活動において

■現状と課題

子ども会は、地域の年齢の異なる子どもが集まり、様々な活動をしています。集団遊びや地域とのつながりを通して、子どもの心身の成長発達を促す活動を行っています。また、相手を思いやる優しい心や仲間づくりも大切な活動の一つとなっています。

しかし、これまで子どもの読書につながる活動はあまり見受けられない状況となっていることから、今後は、絵本や紙芝居の読み聞かせ等を積極的に活動に取り入れてもらえるよう、保護者や地域関係者、読み聞かせボランティアへの働きかけが重要となってきます。

●施策と具体的な取り組み

◇子ども会活動における読書活動の推奨

- ・子ども会活動での読み聞かせや読書会を推進します。
- ・子ども会役員を対象とした読み聞かせ教室を実施します。

2 地域における子どもの読書活動の推進

(1) 公民館において

■現状と課題

公民館では、読み聞かせボランティアの「おはなしピーチク」や読書教室などサークルの活動支援を行い、地域における読書活動の推進に積極的に取り組んでいます。

昨年度からは、読み聞かせボランティアのスキルアップを目指した読み聞かせ講座を開催し、読み聞かせの充実を図るとともに、読書教室の文集「石楠花」など発行等に対する活動支援も行っています。

しかし、ボランティアの人員不足や高齢化が問題となっていることから、さらに幅広い年齢層の協力者を増加させ、地域ぐるみの読書活動を支援していくことが求められています。

●施策と具体的な取り組み

◇地域住民等による子ども読書関連活動への支援

- ・読み聞かせボランティア等、子どもの読書活動推進にかかわる地域人材を育成します。
- ・子どもの読書活動を継続的に行ってもらうための学習機会を提供します。
- ・ボランティア団体、グループ同士の交流の場を提供します。

(2) 高富児童館・子どもげんきはうす・子育て支援センター において

■現状と課題

当施設では、児童・乳幼児の健康増進及び豊かな情操を育むことを目的とし、健全な遊びの指導のほか、児童の居場所づくりや子育て家庭に対する育児支援も行っています。

読書活動では、親子が気軽に利用できる交流の場として、それぞれに図書室を設置し、職員のほかボランティアによる絵本の読み聞かせをはじめ保護者を対象とした読み聞かせ講座、本の貸し出し、親子交流行事などを実施し、推進に努めています。

こうした取り組みにより、保護者に対する読書アンケートでは、読み聞かせを「毎日している」、「時々している」を合わせ、約8割

の家庭で読み聞かせが行われているという結果が出ています。

今後も市図書館との連携により、各館の蔵書の充実を図るとともに、子どもの読書活動につながる絵本等の読み聞かせや、親子の交流事業などを積極的に展開していくことが望まれます。

●施策と具体的な取り組み

◇読み聞かせや読書活動の推進

- ・職員による絵本タイム（毎週月曜日2回開催）を実施します。
- ・ボランティアによる読み聞かせを積極的に取り入れます。
- ・親子交流事業の「ふれあいタイム」、「げんきタイム」等での絵本、紙芝居など、読み聞かせを実施します。
- ・絵本、紙芝居等の蔵書を充実し、乳幼児の保護者や児童への本の貸し出しの充実を図ります。
- ・市図書館の団体貸し出しの活用を図ります。
- ・保護者へのおたよりの中で、おすすめ本などの啓発をします。
- ・保護者のための読み聞かせ講座を開設します。

(3) 図書館において

■現状と課題

山口市図書館は、伊自良地区の図書館を本館とし、高富中央公民館、みやまジョイフル倶楽部にそれぞれ図書室を設置し運営を行っています。

読書活動の推進については、乳幼児のうちから本に親しむ環境づくりをしていくことが望まれることから、絵本や紙芝居などの充実を図っており、蔵書全体に占める児童書の割合は、平成23年度末で41.3%と非常に高い数値を示しています。

また、本館には親子読書室を設けており、毎週土曜日に読み聞かせボランティアによる絵本などの読み聞かせを行っています。さらに、本に親しむ機会づくりとして、子どもたちが図書館に滞在して楽しめるよう、コミック誌の開架やDVDなどの視聴覚コーナーを設けているとともに、月に一度のミニシアターによる映画上映会をはじめ、著名な絵本作家の絵本原画展やワークショップなども開催しています。

今後もより子どもの読書活動を推進していくため、読み聞かせ等のボランティア組織の拡充及び司書の配置と能力向上を図りながら、絵本等の読み聞かせをはじめ、ブックトークや絵本展示など様

々な催しを開催するとともに、子どもにとって「楽しい」、「学べる」、「居心地がよい」といった長時間滞在できる魅力ある図書館づくりに努めていく必要があります。

また、学校や保育園等各施設への貸し出しを積極的に展開していく上においても、絵本、紙芝居、児童書など蔵書の充実を図っていくことが望まれます。

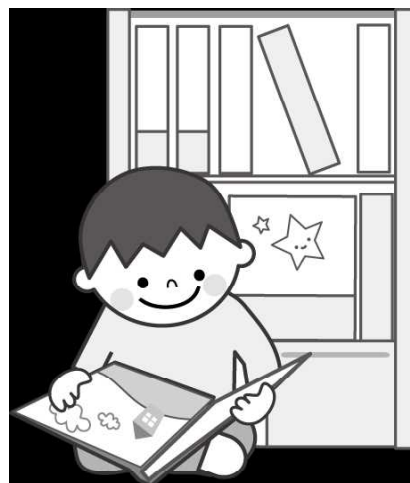
●施策と具体的な取り組み

◇本の楽しさの周知

- ・読み聞かせボランティアの育成及び絵本等の読み聞かせをする機会の拡充を図ります。
- ・ブックトークを実施します。
- ・おすすめ本の紹介を積極的に展開します。
- ・「子ども読書の日（4月23日）」、「子ども読書週間」においてイベント等を開催します。

◇魅力ある図書館づくり

- ・各年代に合わせた児童書の充実を図ります。
- ・親子で楽しめる講座等を開催します。
- ・美術館・歴史民俗資料館を併設した複合施設の利点を生かし、子どもが参加できるイベントを開催します。
- ・DVD等視聴覚資料及びコミックの充実を図ります。
- ・専門的知識、技能を要する司書の設置及び育成に努めます。
- ・学校等各施設への団体貸し出しを促進します。
- ・本館及び高富図書室、みやまジョイフル倶楽部図書室の親子読書コーナー、ヤングアダルトコーナーの充実を図ります。



3 幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校における子どもの読書活動の推進

(1) 幼稚園において

■現状と課題

幼稚園では、毎日、絵本、紙芝居などの読み聞かせの時間をもつように努め、園児に絵本等に対する興味をもたせるとともに、健康や交通安全、環境など、多種類の分野の紙芝居を購入し、園児の生活指導にも役立たせています。

また、園内では常に園児が興味を示し、絵本等を自由に手に取ることができる環境を整えているほか、興味をもたせる「域」を広めるため、毎月学年共通の多種分野の内容で編集されている総合絵本を園児に1冊ずつ配布するとともに、保護者と子どもと一緒に絵本を楽しむ機会づくりにも努めています。

その結果、保護者に対するアンケートでは、家での読み聞かせに幼稚園で配布した絵本を利用していると答えた保護者も多くあり、一定の効果が見受けられました。

さらに、保護者に対し、子どもが本に接する大切さを周知させるため、毎月発行の園冊子「げんき」を活用しての本の紹介をはじめ、図書委員会のお薦めの本、学級通信によるクラスで一番お気に入りの本の紹介をしています。

そのほか、保護者お薦めの本による読み聞かせなど、様々な活動や保護者向けの本の購入も積極的に行うなどの実践により、園児はよりよい読書活動を行っています。

しかし、取り組みを行う中であっても、幼稚園任せになっていたり、保護者が読み聞かせの必要性を感じていなかったり等の理由から、保護者に対するアンケートでは、家で読み聞かせをされていない家庭が全体の23%を示しているほか、絵本に興味を示さない園児がいることや、保護者用に開架してある本の利用が少ないことなどが課題となっています。

●施策と具体的な取り組み

◇保護者に対する読み聞かせの働きかけ

- ・園冊子「げんき」等により読み聞かせの大切さや本の紹介など情報を発信します。

- ・ 保護者意見などを紹介し、保護者に刺激を与え読み聞かせに対する意識の高揚を図ります。

◇絵本に興味をもたせる取り組みの推進

- ・ 興味を示すジャンルの把握や職員の読み聞かせ技術の向上を図ります。
- ・ 雨天時などを活用し、絵本に触れる機会を意図的に創出します。

◇保護者の読書推進

- ・ 保護者向け図書の利用を推進します。

(2) 保育園において

■現状と課題

読み聞かせは、乳幼児期の子ども達が様々な言葉を習得していく中で、感性や創造力など豊かな情操を養い高めるとともに、言葉を学ぶための大切な働きかけであるといえます。そこで保育園では、保育士による絵本の読み聞かせを保育の時間の中でほぼ毎日実践し、読書に興味をもたせるよう取り組んでいます。

また、家庭においても保育園より週に一回の割合で、子ども自身が興味、関心を示し選んだ絵本を貸し出し、保護者と子どもが一緒に絵本に触れる機会を生み出すよう促しています。

こうした取り組みにより、アンケート調査では約80%の保護者が、家庭で子どもに読み聞かせを「毎日している」もしくは「時々している」と回答するなどの成果に結びついています。

今後もさらに読書しやすい環境づくりや本の充実を目指すとともに、家庭での読書がより一層広がることが望まれます。

●施策と具体的な取り組み

◇読み聞かせの充実

- ・ これまでの取り組みをさらに進め、絵本や紙芝居等の読み聞かせを通し、乳幼児が絵本に触れる機会を創出します。

◇読書環境の整備充実

- ・ 購入や市図書館等の活用により、発達に応じた絵本を選定し整備します。
- ・ 絵本等を幼児の目の高さに配架し、安全に落ち着いてじっくりと見ることが出来る図書スペースの確保に努めます。

(3) 小・中学校において

■ 現状と課題

各小・中学校では子どもの読書活動を推進するため、一斉読書、読み聞かせ、図書館祭りなど多様な取り組みを行っており、小学校では本をたくさん読むようになっています。

また、中学校の配膳時間読書の取り組みは、不読者を無くす上で大きな成果をあげています。どの学校も必読図書を選定し、目的をもって質の高い読書、幅の広い読書となるよう工夫しています。

近年、読書と学力の関係が話題になったことや、教科指導における言語活動の重視等から、教科の指導の中で図書館を利用するという機運も高まっています。すべての学校で標準的な蔵書数を満たしているほか、教科指導に役立つ書籍の充実にも努めています。

また、保護者や地域の関係者との連携については、多くの学校で読み聞かせボランティア等の活用や、親子読書の推進に取り組んでいます。

今後に向けては、読書指導員や司書教諭、司書等専門的知識を有する者が、教員や保護者など大人のためのサポート的存在としても活動し、組織的に図書館活用の意欲・動機付けができるようになることが望まれます。さらに、大人の子どもの読書に対する意識や子どもを取り巻く環境の重要性の理解を深め、進んで子どもが読書することに結びつく活動の工夫を一層進めていくことが大切です。

● 施策と具体的な取り組み

◇子どもの読書活動の推進及び適切な指導、助言を行うための取り組み

- ・一斉読書、読み聞かせ、図書館祭り、広報などの取り組みを継続し、読書活動の充実を図ります。
- ・市図書館、PTA、ボランティア、家庭、学校間などの連携を図ります。
- ・図書館担当教諭の研修と校内での研修会の充実を図ります。
- ・読書指導員を各校に配置します。
- ・市の読書感想文コンクールの実施や感想文講座を実施します。
- ・教科の学習に役立つ資料の充実や管理方法のデジタル化を図ります。

(4) 高等学校において

■現状と課題

読書の推進については、これまで毎年4月に新入生を対象として、図書館オリエンテーションを実施し、図書館の利用法や読書の意義について説明を行ってきました。平成11年度からは「全校一斉朝の10分間読書」を開始し、平成23年度には朝の読書強化週間を年に3回（5月23日～27日、9月5日～9日、1月10日～13日）設けて、全職員で取り組みました。

また、図書委員の活動では、「図書館だより」を毎月発行し、図書委員のお薦め本を紹介するとともに、教室に掲示しています。

そのほか、平成22年度からは、みやま保育園、それ以前は美山小学校で読み聞かせボランティアを実施しており、今年度は7月13日に図書委員を中心とする生徒8名が参加し、5歳児対象に大型絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。

朝の読書活動では、1日の始まりに心穏やかに過ごす時間を持たせることによって、落ち着いた学校生活が送れるという成果が出ました。

しかし、読書量については、平成21年度から平成23年度に実施したアンケート集計結果で、中学生の頃より読書量が多くなったと回答した生徒は、平成21年度41%、平成22年度34%、平成23年度22%となっており、年々減少する傾向が見られました。

今後は、いかに工夫して生徒に読書活動についての啓発をしていくかが課題となっています。

●施策と具体的な取り組み

◇読書活動の推進のための取り組み及び啓発

- ・「図書館だより」や展示などによる図書委員を中心とした積極的な広報活動を進めます。
- ・朝の読書の継続及び子どもの読書週間（4月23日～5月12日）での啓発活動を推進します。
- ・生徒の調べ学習に対応できる資料の充実を図ります。
- ・他館との積極的な相互貸借による資料の提供及び情報交流を進めます。
- ・読み聞かせボランティアとして活動する生徒の育成を図ります。

第3章 子どもの読書活動の連携及び啓発並びに推進体制

1 連携及び啓発並びに推進体制づくり

■現状と課題

市図書館をはじめ学校などの機関や家庭において、子どもの読書活動の取り組みを積極的に行っていますが、連携の面においては十分とはいえない状況にあります。

今後は、家庭、地域、学校がそれぞれの役割を果たしながら、本の相互貸借をはじめ読み聞かせ活動や読書活動のための啓発、情報共有など、市図書館を中心とした連携、協力を積極的に進め、市全体で子どもの読書活動を推進していくための体制づくりが望まれます。

●施策と具体的な取り組み

◇連携による読書推進

- ・各機関の相互貸借を推進します。
- ・図書情報の共有化を図ります。
- ・市図書館における団体貸し出しの推進を図ります。
- ・読み聞かせボランティア等団体との連携・協力を推進します。

◇啓発による読書推進

- ・「子ども読書の日」及び「子ども読書週間」の啓発をし、周知を図ります。
- ・広報紙や市図書館ホームページ等により、各機関のイベントや活動状況などの取り組みを紹介します。

◇読書推進の体制づくり

- ・市図書館を中心とした各機関の司書等読書担当者及び関係団体の代表者からなる研究会、交流会など開催し、子どもの読書活動を推進します。

資料

山縣市子どもの読書活動推進計画検討委員会名簿

委員

	氏 名	役 職	区 分
1	西 村 覺 良	社会教育委員の会 議長	地 域
2	古 田 豊 行	図書館協議会 委員長	
3	江 尾 康 子	読み聞かせボランティア 代表	
4	高 屋 重 義	高富児童館 館長	
5	土 田 美智子	子どもげんきはうす 館長	
6	吉 田 安 孝	P T A連合会 会長	家 庭
7	春 日 涼 子	はなぞの北幼稚園 教頭	幼稚園 保育園 学 校
8	笠 原 秀 美	福祉課 課長	
9	大 野 美 幸	保育園長代表 伊自良保育園 園長	
10	今 瀬 幸 子	山県高校 図書司書	
11	宮 川 誠	学校教育課 課長	
12	林 和 子	小・中学校長代表 桜尾小学校 校長	
13	森 祥 彦	小・中学校図書館主任代表 富岡小学校教諭	

事務局

	氏 名	職 名
1	江 崎 護	生涯学習課 課長
2	梅 田 義 孝	図書館 館長
3	高 橋 伸 昌	図書館 主査

山縣市子どもの読書活動推進計画策定作業部会名簿

	氏 名	職 名
1	横 山 美由紀	生涯学習課 課長補佐
2	森 川 勝 介	学校教育課 課長補佐
3	早 瀬 美由紀	子どもげんきはうす 主査
4	岩 田 豊 実	児童館 主査
5	浅 井 智 子	富岡保育園 副園長
6	小 南 智 子	福祉課 主任